

西宮市消防局 救急ガイドブック

【高齢者福祉施設向け】

(令和6年度改訂版)



西宮市消防マスコット
ウーちゃん ・ カンちゃん

西宮市消防局救急課ホームページ



※テキスト内の二次元コードから救急に関わる情報をご覧いただけます。
(通信費用につきましては、自己負担となりますのでご注意ください。)

もくじ

1	はじめに.....	P1
2	施設内での予防.....	P2
3	事前準備.....	P4
4	救急現場における心肺蘇生を 望まない傷病者の対応について.....	P6
5	救急要請のポイント.....	P7
6	参考資料.....	P8
7	おわりに.....	P17

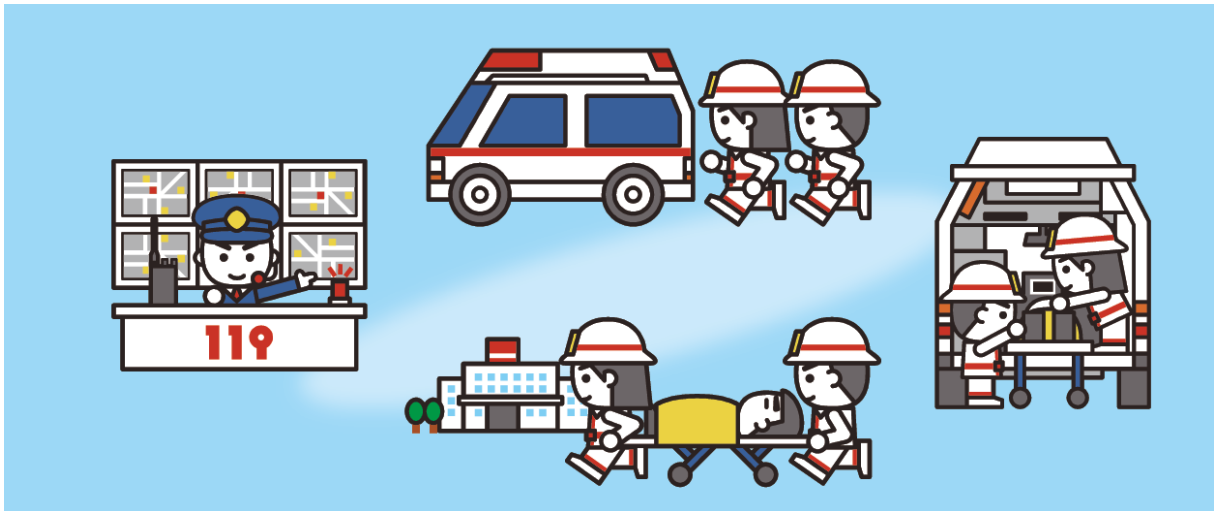
1 はじめに

高齢化の進展に伴い、救急現場においても65歳以上の高齢者の搬送が増えています。高齢者福祉施設(以下、「施設」といいます。)からの救急要請も増加しており、入所者の急病や施設内での転倒事故等による救急要請も見受けられます。

ご存じのとおり、高齢の方々は、ちょっとした病気やケガ等で重症化する場合があります。いざという時に適切な対応を行うためには、あらかじめ準備や対応方法を確認し、施設職員の皆さまと救急隊が相互に理解を深めておく必要があります。救急車を要請する必要がある場合に、円滑な連携を図るため、この「救急ガイドブック」を作成しています。

そのほかにも、緊急ではない場合に利用できる患者等搬送事業者(民間救急)の情報や救急車を呼ぶかどうか判断に迷った時の問い合わせ先、救急車を要請する場合の注意点など、救急に関わる情報を幅広く掲載しています。

施設利用者が安心して末永く元気で暮らせるよう、いざという時の対応方法について事前に施設の職員間で確認し、職員の皆さまが共有意識を持って対応していただくために、このガイドブックをご活用いただければ幸いです。



2 施設内での予防

(1) 手洗い・うがいの励行

提携医療機関や保健所等の指示に基づき、インフルエンザやコロナウイルスなどの各種感染症によるクラスターを予防し、職員の皆さまだけでなく、入所者全員の手洗い・うがいを徹底しましょう。

また、感染経路(接触・飛沫・空気など)や、嘔吐物などの正しい処理の方法など、感染予防対策を知ること、施設内での二次感染を防ぐことができます。

感染症に対しての、正しい知識を身につけましょう。

※参考～「高齢者介護施設における感染対策マニュアル改訂版」



(2) 転倒・転落防止

高齢者は、普段生活していて慣れている場所でも小さな段差でつまずき転倒し、骨折を伴い、重症となってしまう場合が少なくありません。

施設内の段差や滑りやすい場所などの危険箇所にも注意するとともに、整理・整頓を心掛け、廊下や部屋の明るさにも注意してください。

また、室内で床にこぼれた飲み物やビニール袋などで滑り、転倒してしまったという事例もあります。

※参考～P8「事故予防チェック 事故の原因を知って対策しましょう」

(3) 処方薬の副作用を確認

処方薬によっては、副作用の影響で思った以上にふらついてしまい、ベッドから起き上がる際などに、転倒・転落してしまうことがあります。

掛かり付け医師(以下、「主治医」といいます。)等の指示に従い、処方薬の副作用を確認するとともに、処方薬が変わった時などは、服薬後の容態変化にも注意し、速やかに主治医等に連絡するようにしましょう。

(4) 誤嚥・窒息の予防

特に、脳梗塞や神経疾患のある傷病者は、嚥下運動が障害され、飲み込みにくなっていることや咳をしづらくなっていることもあり、誤嚥や窒息を生じやすくなっています。

お餅や大きな肉はもちろん、パンやゼリーなどでも、窒息事故が起きています。

食べ物を小さく切って食べやすい大きさにするだけでなく、ゆっくりと食事に集中できる環境を作り、適宜、職員の皆さまが食事の様子を見るなど、注意掛けをお願いします。

もしも、食事中にむせるなどの症状があった場合には、食事後の容態変化にも注意しましょう。

※参考～P8「事故予防チェック 事故の原因を知って対策しましょう」

(5) 温度変化に注意

高齢者は、温度調整機能が低下しています。夏季は「熱中症」、冬季は「ヒートショック」などによる救急事故が増える時期となります。

居室やリビングだけでなく、施設内のお風呂やトイレ、廊下などの温度変化にも注意し、急激な温度変化を作らない環境作りを心掛けましょう。

～「熱中症」にご注意～

夏の猛暑による健康影響の増大が指摘されています。

熱中症の予防には、「水分補給」が大切です。喉の渇きを感じる前に、こまめな水分補給を行いましょ。特に、高齢者は暑さを感じにくく、室内でも熱中症になることがありますので、十分注意しましょ。

～「ヒートショック」にご注意～

ヒートショックとは、急激な温度の変化によって血圧や脈拍が大きく変動することです。冬季はヒートショックによる救急事故が増える時期となりますので、入浴時は予め脱衣所や浴室を温めておくなど、急激な温度変化を作らない環境作りを心掛けましょ。

※参考～P9「熱中症は予防が大事」

(6) 悪化する前の対応

高齢者は、ちょっとした病気やケガで重症化する場合も少なくありません。

早めに病院受診や往診を受けましょ。

※参考～P10・11「受診が必要か判断に迷ったら・・・」

※参考～P12「受診可能な医療機関を検索する」

※参考～P13「患者等搬送事業者などを利用する」

※参考～P14「突然のこんな症状の時にはすぐ 119 番！！」

3 事前準備

(1) 生活状況の記録

職員の皆さまは、入所者の普段の生活状況について誰よりも良く知っています。

毎日の状況について記録するなど、いざという時のために、入所者の状況を把握できるような記録を作成し、医療機関に持っていけるようにしてください。また、家族などの緊急連絡先の情報も把握しておくことで円滑な救急対応につながります。

救急要請時に必要な情報をまとめたシートなどを事前に作成しておくことで、救急隊へのスムーズな情報伝達が可能となります。

※参考～P15「もしものときの救急対応シート」

(2) 主治医、協力病院との連絡体制の構築

普段から、主治医や提携医療機関等との連絡を密にし、容態が変化した際に、相談や受診ができる体制を事前に作っておきましょう。

高齢者であることを認識し、体調の変化に気づき、症状が発症した場合には、早めに医療機関を受診する体制を構築してください。医療機関を受診する場合は、症状が悪化する前に受診することが大切です。

また、緊急性がない場合は、施設等の車両や、タクシー、患者等搬送事業者(民間救急)などの利用をお願いします。(P13 参照)

緊急かどうか判断に迷う場合は、主治医や協力病院に相談するほか、ハローにしのみや(西宮市健康医療相談～P10 参照)にも相談することができます。ただし、緊急と判断した場合は、迷わずに 119 番に連絡して救急車の要請をしてください。

※「緊急性が認められるとは？」

例えば、意識障害、呼吸困難、心不全、呼吸停止、心停止、大きなけが等により、迅速に病院等へ搬送する必要がある場合をいいます。

(3) 事故発生時のための検討

施設内で事故防止に努めていても、緊急事態が起こらないとも限りません。

いざというときに慌てないために、施設内で各職員がどのように行動したらよいか、主治医等や家族への連絡など、事前に検討しておいてください。

夜間・休日など、特に少ない人数で対応しなければいけない時に、どのように行動したらよいか、事前にできることを考えておきましょう。

緊急時に対応する資器材(AED、救急バッグ等)の設置状況についても、事前に確認してください。

また、災害発生などにより停電した場合は、エアコンや人工呼吸器、酸素発生装置等が使用できなくなることがありますので、災害発生時の対応やバックアップシステムなどを事前に検討しておきましょう。

(4) 応急手当の習得

入所者が生命の危険にさらされたとき、最初に気づくのは職員の皆さまです。

西宮市消防局では、いざというときのための応急手当を学ぶ「救急講習会」を開催しています。

ぜひ、いざというときのために、応急手当を身につけましょう。

市内の事業所、団体、グループでの申し込み、他の内容の講習を希望される場合は、最寄りの消防署までご相談ください。

※参考～P16「心肺蘇生の手順」

※【消防局】町名別管轄消防署検索



救命の連鎖の重要性を確認しましょう！



(救急蘇生法の指針 2020(市民用)より引用)

4 救急現場における心肺蘇生を望まない 傷病者の対応について

(1) DNAR(心肺停止時に蘇生処置をしないで欲しい)の意思表示の確認

各入所者の DNAR(心肺停止時に蘇生処置をしないで欲しい)の意思表示がある場合は、事前に主治医や協力病院に相談して医師の DNAR 指示内容を理解したうえで、急変時における連絡手順等の対応についてあらかじめ確認してください。

(2) 救急要請された場合

救急隊は、日常から傷病者と関わっていないため、本人と家族等、医療チーム、介護チームとの合意形成の有無などについて、緊急を要する救急現場で確認することは困難です。

DNAR の意思表示がある場合でも、救急要請があれば救急隊は救急処置を何もしないで医療機関へ搬送することはできません。

また、自殺や虐待の疑いがある場合には、警察に通報することになります。

救急隊の活動にご理解とご協力をお願いします。

※参考～「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」



※参考～「人生の最終段階における医療・ケアの
決定プロセスに関するガイドライン」



5 救急要請のポイント

(1) 救急要請時の対応ガイド

緊急事態発生

施設内に知らせ、職員と資器材(AED、救急バッグ等)を集めましょう。

集まった職員の役割を分担してください。

- 傷病者への応急手当
- DNAR の意思表示と対応の確認
- 119 番通報
- 傷病者の情報収集(傷病者の記録や緊急連絡先など)
- 関係者等への連絡(家族、主治医、協力医療機関、施設関係者など)
- 救急車、救急隊の誘導
- 救急隊への情報伝達

(2) 協力病院への連絡と搬送病院の確保

- 状況に応じて、協力病院や主治医にも連絡してください。
- あらかじめ搬送先医療機関を交渉・確保されている場合には、当該医療機関への搬送を優先しますが、入所者の病態や状況により緊急を要する場合には、救急隊が別の医療機関に搬送する場合があります。

(3) 施設職員又は家族の救急車への同乗

医療機関への情報伝達が必要ですので、可能な限り、状況の分かる方に救急車への同乗をお願いします。同乗できない場合には、家族等が搬送先医療機関へ来られるように手配をお願いします。

また、救急対応シート(P15 参照)・看護記録・介護記録・カルテ・健康保険証(マイナ保険証含)・お薬手帳などを持参してください。

(4) 患者等搬送事業者(民間救急)の活用

救急車や救急医療は限りある資源です。

緊急を要さない場合などは、自家用車やタクシー、患者等搬送事業者(民間救急～P13 参照)などの活用に、ご理解とご協力をお願いします。

6 参考資料



事故の原因を知って対策をしましょう!

1位 転倒 段差、玄関、廊下など

- 段差につまずかないよう気をつけましょう
- 転倒を防ぐために整理整頓を心がけましょう
- 階段、廊下、玄関、浴室など滑り止め対策をしましょう

2位 転落 階段、ベッド、脚立、椅子など

- 階段などには手すりを配置しましょう
- ベッドにも転落防止の柵をつけましょう
- 脚立などを使用して作業をする時は補助者に支えてもらいましょう

3位 窒息 食物(餅・肉等)、薬等の包装など

- 細かく調理。ゆっくりよく噛むことで窒息予防
- お茶などの水分を取りながら食事をしましょう
- 急に話しかけて、あわてさせないように気をつけましょう

4位 ぶつかる 家具、人、柱、ドアなど

- 慌てず、周りをよく見て行動しましょう
- 通路などに物を置かないようにしましょう
- 暗いところは十分な明るさを確保しましょう

事故を防ぐために

- 事故防止にはご家族などの協力も大変重要です
- 熱中症対策には、早めの水分補給を心掛けましょう



熱中症から 身を守ろう!



**「熱中症特別警戒アラート」発表時は
特に注意が必要です!**

気温が特に著しく高くなることにより熱中症による重大な健康被害が生ずるおそれのある場合に「熱中症特別警戒アラート」が発表されます。
熱中症特別警戒アラートの発表地域では、自発的な熱中症予防行動を積極的に行うとともに、家族や周囲の方々への見守りや声かけなどを行いましょ!



総務省消防庁
Fire and Disaster Management Agency



受診が必要か判断に迷ったら・・・

- 電話で相談する

健康・医療相談が電話でできる

健康 医療 相談 ハローにしのみや

24_{時間}年中無休 **無料** 通話料・相談料









健康・医療・育児の悩み・家族での介護などについて電話で相談できる「健康医療相談ハローにしのみや」は、西宮市にお住まいの方なら、どなたでもご利用いただけます。

「気になる症状や病気のことについての悩み」「応急手当はどうすれば良いか」「こどもが夜中に熱を出したがどうすれば良いか」「どこの医療機関に行けば良いか」など、ご相談内容に応じて、看護師、看護師などが分かりやすくアドバイスしてくれます。

国内であれば、旅行や出張などの出先からもご利用いただけます。また、現地の医療機関の案内も可能です。

通話料無料 ハロー にしのみや

0120 86 2438

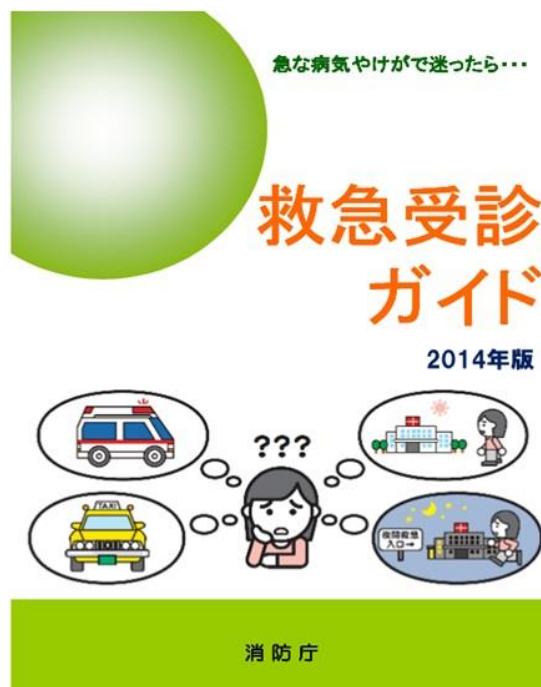
応急処置・治療 急な病気やケガなどの応急処置 最新の治療法 など		医療機関情報 受診できる医療機関 専門病院の情報 など	
受診の目安 受診が必要か 何科を受診すべきか など		妊娠・出産 妊娠中の食事や運動、服薬 不妊症の治療 など	
薬の服用 薬の効果・副作用 服用方法 など		育児の悩み 月齢に合わせた授乳、離乳食 発育についての悩み など	
健康管理 病気予防のための 食事や運動 など		家庭での介護 高齢者の介護 介護保険の利用 など	

● ホームページ等で病院受診の要否を判断する

「救急受診ガイド 2014 年版」及び「全国版救急受診アプリQ助(きゅーすけ)」は、急な病気やけがをした際に、「いつ病院を受診したらいいか?」「救急車を呼んだ方がいいか?」と迷った時に、ご自身での判断を支援することを目的として、日本救急医学会監修のプロトコルを基に作成しています。

- 病院やクリニックに行った方がいいかどうか?
- 行くなら急いだほうがいいのか? 待てるのか?
- 救急車を呼んだ方がいいかどうか?

などで迷った時は、ご利用ください。



※参考～「救急お役立ちポータルサイト」



受診可能な医療機関を検索する

- 兵庫県災害救急医療情報システム →



兵庫県災害救急医療情報システム

急な病気やケガなどの救急医療や災害時の救護所や拠点病院の情報を提供する兵庫県の情報サイトです。

文字サイズ 小 標準 大

救急医療機関一覧

休日夜間急患センター一覧

このシステムについて

救急時間外外来受診について

かかりつけ医を持ちましょう

小児救急電話相談

災害情報

災害拠点病院一覧

救急医療関係者ログイン

周産期医療関係者ログイン

リンク

一覧へ

兵庫県医師会

広域災害救急医療情報システム(厚生労働省)

兵庫県

- 西宮市医師会ホームページ →



市内医院や病院の紹介、介護等の援助が必要な方々に様々なサービスを紹介しています。

一般社団法人
西宮市医師会

会員サイト 開業をお考えの先生へ キーワード検索

HOME お知らせ 医師会について 医療機関の検索 救急医療機関 在宅・高齢者ケア

市民の皆様の保健、医療の充実と安心のお手伝いをいたします。

市内医療機関の情報

救急医療機関の情報

人間ドック・各種健康診断

医院・病院の検索はこちら

休日・夜間の急病はこちら

西宮市医師会診療所健診部

患者等搬送事業者などを利用する

患者等搬送事業とは、緊急性がない傷病者や要援護者等を医療機関や社会福祉施設等へ搬送する事業のことです。

西宮市消防局では、西宮市内の民間による搬送事業者について一定の基準に適合する事業者を「患者等搬送事業者」として認定しています。



認定車両には自動車認定マークが貼り付けられています。

西宮市消防局が認定する患者等搬送事業者一覧(令和6年11月30日現在)

●株式会社 かいんどりー

所在地:西宮市中前田町3-20
電話:0120-22-1952

●ケアタクシー もも

所在地:西宮市東山台3丁目 17-2
電話:090-7341-3030

●株式会社 兵庫県メディカルケアサービス
いまづ介護タクシー

所在地:西宮市今津大東町1-23
電話:080-5337-7544

●介護タクシー さくら

所在地:西宮市高須町1丁目1-16-906
電話:080-3831-8282

●介護タクシー かより

所在地:西宮市甲子園七番町14-23-102
電話:090-9765-9505

●株式会社ふうりんネットワーク
介護タクシー・ふうりん

所在地:西宮市生瀬高台 18-13
電話:0797-91-2580

●つばき福祉タクシー

所在地:西宮市上大市5丁目 23-19
電話:0120-294-865

●介護福祉タクシー 創優(そお~ゆう~)

所在地:西宮市山口町下山口4丁目 19-1
電話:078-903-4151
080-2411-0248

●西日本 PAM 株式会社

所在地:西宮市鳴尾浜2丁目1-29
電話:0120-49-9992

●介護タクシー ケアリー

所在地:西宮市桜町1-69
電話:080-2262-0362

※参考「最新情報」 →



突然のこんな症状の時にはすぐ119番!!

顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える



高齢者



頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

けいれん

- けいれんが止まらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど



吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせた

事故

- 交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた



◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合◎
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

※迷ったら「かかりつけ医」に相談しましょう!

もしものときの救急対応シート

見本



施設名

所在地

連絡先

※ 書き直せるよう、エンピツでご記入ください。

記入日： 年 月 日

(ふりがな)		<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	住 所	
氏 名				
生年月日	<input type="checkbox"/> 明治・ <input type="checkbox"/> 大正・ <input type="checkbox"/> 昭和 年 月 日		電話番号	

	かかりつけ医療機関 ①	かかりつけ医療機関 ②
名 称		
科目 及び 担当医		
所 在 地		
電話番号		

持病・ 既往症	
服薬状況	
アレルギー	
健康保険証番号	
病院、救急隊に 伝えたいこと	

緊急 連絡 先	氏 名 (ふりがな)	続 柄	電話番号	住 所

その他 特記事項

【お願い】 必要に応じて新しい情報に書き直してください。

※搬送先医療機関 関係者様へ

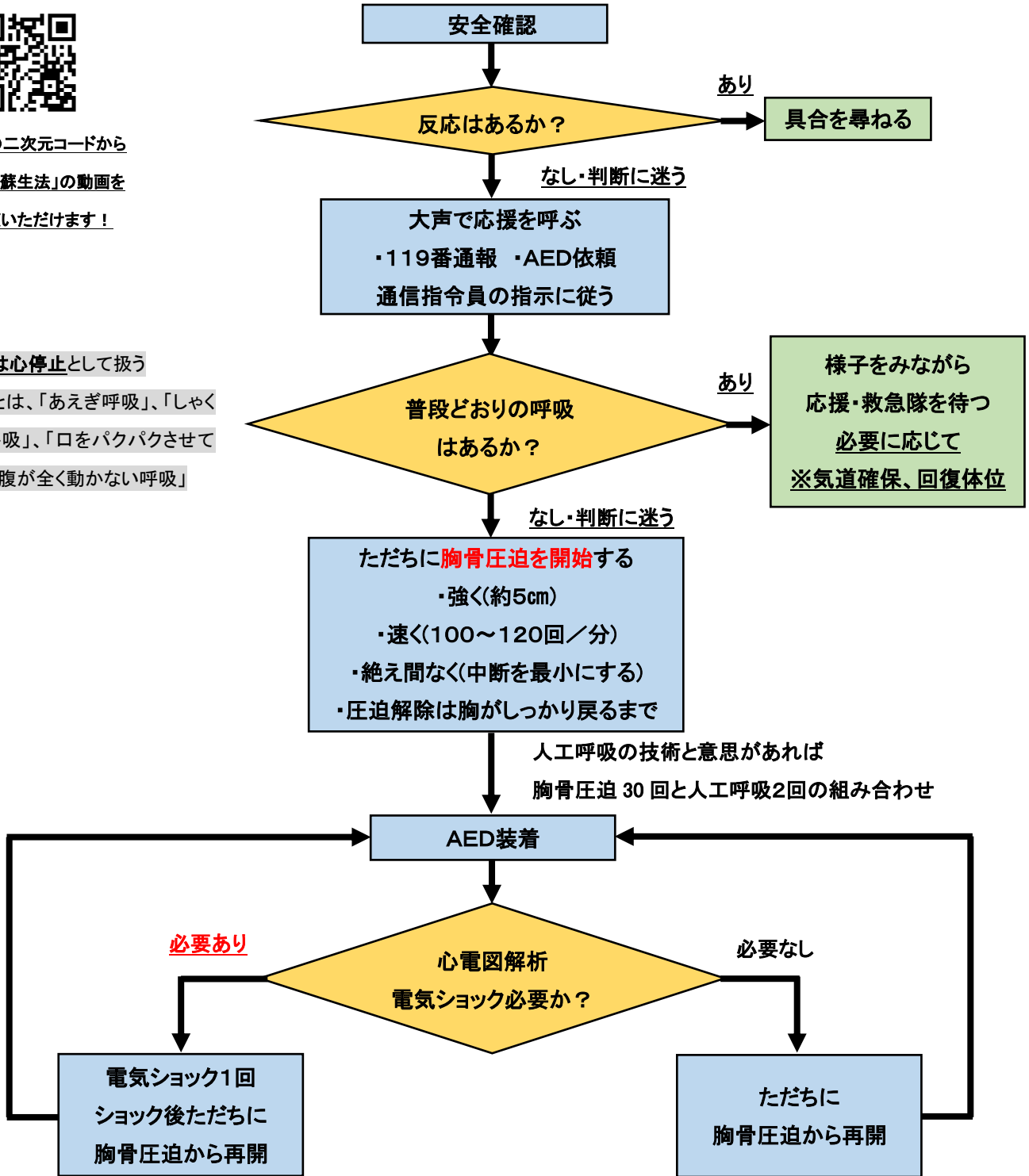
【取扱注意】傷病者及び関係者並びに第三者への提供を禁じます。必ず、施設職員に返却してください。

心肺蘇生法の手順(高齢者福祉施設向け)

※DNAR(心肺停止時に蘇生処置をしないで欲しい)の意思表示がある場合は、あらかじめ協力病院や主治医に相談し、急変時の対応について決めておいてください。



※この二次元コードから「心肺蘇生法」の動画をご覧ください！



※死戦期呼吸は心停止として扱う
 ※死戦期呼吸とは、「あえぎ呼吸」、「しゃくりあげる様な呼吸」、「口をパクパクさせているが、胸やお腹が全く動かない呼吸」

★強く、速く、絶え間なく胸骨圧迫を！

救急隊に引き継ぐまで、または傷病者に普段どおりの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生法を続ける

7 おわりに

西宮市消防局では、増加する救急要請に適切、的確に対応するため、病気やケガなどを未然に予防するための取り組みを推進するとともに、限り資源である、救急車の適正利用を呼び掛けております。

病気やケガなどの中には、ほんの少しの注意や心掛けで、未然に防ぐことのできるものがあります。

是非、施設の皆さまにおかれましても予防に取り組んでいただき、救急車の適正利用にご協力をお願いします。

高齢者は、些細なことで緊急事態に陥る可能性が高く、何時どこで何が起こるかわかりません。

入所者の命を守るため、救急活動が円滑に行えるよう、施設の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

